



枚方市議会議員 無所属

# 未来に責任 木村亮太

市議会議員活動の総まとめ。  
課題と提案、そして変わったこと。

枚方の明るい未来を創るために、あるべき政治に向けて、  
人口減少や厳しい財政財政状況の中、  
困難な課題についても提案、挑戦し続けてきました。

- × 特定の地域や団体だけに利益を誘導する政治
- × 負担を先送りする政治
- 枚方市全体の課題を解決する政治
- 未来に責任を持った政治

政策や想いで選ばれる政治を実現するため  
情報発信をしております。  
私なりの課題と議会での提案、  
そして、何がどう変わったのかを  
まとめております。

公式サイト Twitter Facebook LINE@

QRコードからすべてのSNSアカウントにアクセスできます。

**経歴** 1984年4月生まれ、枚方小学校・バンコク日本人学校・枚方中学校・四條畷高校・大阪大学、化粧品を扱うベンチャー企業を経て市議会議員に。  
グロービス経営大学院大学 (MBA)・京都大学公共政策大学院 修了

**問い合わせ先** TEL : 070-5651-5832 MAIL : hirakata@kimura-ryota.net  
〒573-8666 枚方市大垣内町2-1-20 枚方市役所4階 議員控室  
HP : http://kimura-ryota.net/

**好きな言葉** 「国があなたに何をしてくれるかを尋ねてはなりません、あなたが国のために何をできるか考えてほしい」 (ジョン・F・ケネディ)  
「青春とは心の若さである。信念と希望にあふれ、勇気に満ちて日に新たな活動を続けるかぎり、青春は永遠にその人のものである」 (松下幸之助)

**課題を先送りする政治に疑問を抱く**  
31年間の平成があと少しで終わります。皆様にとって平成はどんな時代だったでしょうか？ここ数年は景気が拡大しているという数値も出ていますが、その実感はありますか？  
昨年には枚方市にも地震や台風などの自然災害が起り、大変な思いをされた方も多かったのではないのでしょうか。振り返ってみるとバブルの崩壊から始まり、枚方では阪神淡路大震災や大阪北部地震も発生し、平成という時代は決して明るいニュースは多くなかったように思います。

今の日本には自然災害への備えや、年金、医療介護、人口減少、少子化といった様々な問題があります。学生時代から、気になることや問題の背景を調べることが好きだったこともあり、これらの問題に目を向けた時、その原因は目の前にある大事な課題に向き合わず、問題を先送りにして、「選挙に通るための政治」が続いていることにあると感じました。そしてこの山積み問題は自分の生まれ育った枚方市も例外ではないということも改めて実感したのです。

**若手政治家と出会い、政治の世界に挑戦、政策を提案**  
そんな時、インターンシップを通じて若手の政治家と出会う機会がありました。彼らは地域の未来のため、日本の未来のために熱い想いをもって政治に取り組んでいました。その活動に刺激を受けて、不満を持っているだけでなく、自ら行動し、問題に取り組む必要があると感じるようになりました。

いった非常に厳しいものでした。それでも政策や想いで判断される政治を実現したいという強い考えのもと、無所属という立場で立候補し、同じ想いを持つ市民の1票の積み重ねで枚方市議会議員として活動させていただいております。

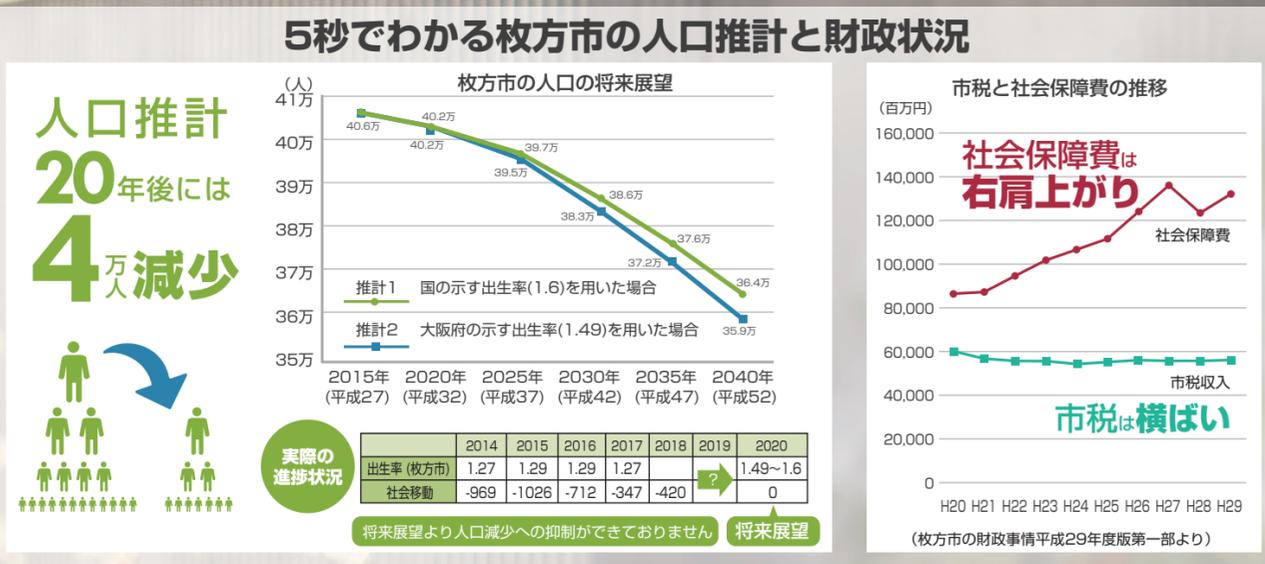
裏面には当選してから今までの活動において粘り強く主張を続け、徐々に変わってきたことをまとめていますのでご覧ください。

**枚方市の現状と未来について**  
枚方市も下の図にあるように人口の減少は年々進み、社会保険関係費の増大も続いています。このままのやり方を続けたら私たちの住む枚方市はどうなってしまうのでしょうか？子供達やそのまた下の世代まで明るい未来が想像できる、そしてその未来を実現する為に行政改革を実施し、より良い未来を創るために教育や子育て支援の充実など、未来への投資をしていきたいと考えています。

20年後30年後の未来を見据えて考えた時、具体的に個別の課題を解決するための知識や調査能力、そして「枚方市が変った」「枚方市が良くなった」と思えるようなものは少ないかもしれませんが、少しずつ手応えを感じています。

これからの未来に責任を果たすために、あるべきまちの姿に向け、現状を認識し、課題を発見し、解決策を提案し続けていきます。

枚方はこれまで人々の交流や市民の主体的な活動が盛んで、新しいものを取り入れながら、発展してきたまちです。これからも、新しいことも積極的に取り入れて、明るい未来を描けるまち、未来への可能性を感じられるまち、人が育つまち、市民が主体的に様々なことに取り組み、新しいこと・おもしろいことがおこるまちにしていきたいと考えております。



# 枚方の明るい未来を創るために、持続可能な社会のために、提案してきたこと、実現したこと、これからやっていきたいこと

## 行財政改革



地方債残高(借金)を抑制するために、財政運営のやりくりの中で借金の繰り上げ返済の提案をし、10年間で10億円程度の削減が実現。

生活排水処理施設の更新時に、「縦割り行政」の壁を乗り越えて手数料が軽減することを提案し年間1億円程度の経費の削減が実現。



### 公共施設の最適利用

枚方市の公共施設は築30年以上のものが約6割あります。老朽化する公共施設の更新・維持管理費が膨大にならないように、最大限の利活用や、費用負担の平準化、再編や統廃合を主張してきており、今後の対応をまとめた公共施設マネジメント推進計画が2017年に策定。



## 議会改革

## 課題解決 できる議会に

議会基本条例を制定し、通年議会の導入。大阪北部地震や台風21号などの災害時にも緊急議会を都度開催して対応。私が所属した委員会では、浸水対策、子どもの貧困対策、枚方市駅再開発などについて議論を深め、行政への提案・報告をまとめています。以下のように議会全体でコストカットも進めております。



## ICT活用

## ICTや新しい技術を活用したまちづくり



行政の効率化、情報公開、市民の利便性向上のためにICTをどんどん活用していくべきです。これまでオープンデータの推進を提案してきました。他にも、枚方市では業務の自動化(RPA)も2018年から開始。アプリの活用も提案し、子育てアプリが2018年1月に配信。

今後もスマホアプリやネットでの手続きや申請、キャッシュレスなども進めてまいります。

## NPO連携

## NPOなどと連携して地域活性化

行政だけでは解決できない課題をNPOや地域団体と連携して解決していくために、環境整備が必要です。活動場所:空き家対策の計画策定時に「NPOや地域団体と空き家をマッチングして有効活用すべき」と主張し、計画にその旨が盛り込まれました。活動資金:NPOなどに寄付をすると税が一部控除される公益税制の導入やクラウドファンディングの活用を提案。公益税制は2015年より制度導入、活動団体によるクラウドファンディングも順次実施。



## 予防医療・介護予防

一人一人が年齢を重ねても健康でいきいきと生活すること、そして、増え続ける社会保障費を少しでも抑制すること

## 糖尿病医療費500万円



※ 国民健康保険における重症化予防サービス事例の10万人規模換算モデルケース(平成22年12月末分析値)  
※ 医療費・患者数は概算の数値で算出しています。

糖尿病は重症化し、人工透析が必要になると、週に2~3日通院し、医療費も1人で年間500万円程度かかります。健康的な生活、医療費抑制の観点から、重症化予防を訴え2017年から予防プログラムが実施。約20人の人工透析への移行を予防、年間約1億円の医療費抑制効果の見込み。

## 健康ポイント

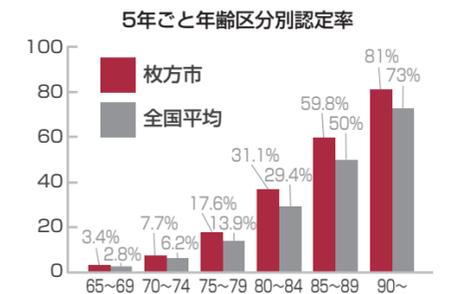
枚方市の医療費の中で約2割は生活習慣病関連です。運動や検診を受けるなどの、健康的な生活習慣になることで、医療費を抑制していくことが必要です。健康に対する無関心層も巻き込むために健康ポイント制度を提案し、2019年1月よりひらかたポイント制度が開始。



- 健康診断を受けるなどでポイントが付与
- ポイントは市内の協力店舗で使用可能

## 介護予防

枚方市は年代ごとの介護認定率が他市よりも高いです。また、認定を受けてから重度化する比率も高いため、重度化防止のプログラムと、目標設定が必要と訴えていました。2018年に策定した計画では「状態の改善率」が目標の指標となり、新たな介護予防プログラムも開始。

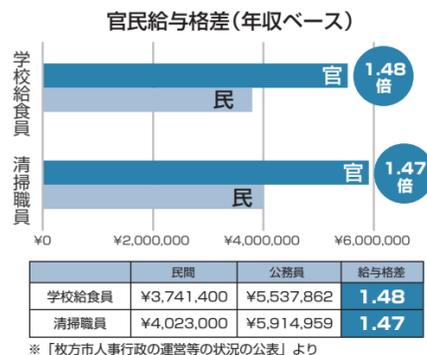


## 人事給与制度改革

## 人件費抑制効果 単年度あたり5,300万円

### 官民給与格差の是正

公務員の給与は地方公務員法により「民間均衡の原則」があります。しかし、技能労務職は民間と比較して格差が生じています。格差の少ない給料制度の適用を主張してまいりました。2018年度より民間の給与水準に近い給料表が適用され、公務員の人件費が抑制されました。抑制効果は、対象となる公務員の合計で単年度あたり5300万円。



## 頑張った職員が報われる人事給与制度

地方公務員法には「職務職責に応じた」「能力及び実績に基づく人事管理」が規定されていますが枚方市では、上司と部下の給料が逆転している場合もあります。また、以前は期末勤勉手当(いわゆるボーナス)も評価に関わらず一律支給となっていました。お金がすべてではありませんが、頑張った職員が報われる給与制度にすべきと主張してきました。2018年12月議会で給料条例改正し、下の図のように新しい給料表が導入。非管理職への期末勤勉手当への反映も2014年より実施。



## 教育・子育て支援の重点化

ひとりひとりが夢や希望を持てるような教育のための環境整備  
核家族化・共働き世帯が増える中で働きながら子育てができる環境整備

- 不登校支援の拡充のために、支援員の拡充
- 経済状況や家庭環境に関わらず、学力が身につく機会の提供
- 生徒と向き合う時間を増やすために教職員の多忙化解消の校務支援システムの導入
- 社会を生き抜く力をつけるアントレプレナーシップ教育の導入

## 教育



## 子育て

- 子育てしながら働ける場所の整備
- 待機児童の定員枠の拡充
- 空き教室・空き施設の活用
- 病児保育のさらなる拡大
- ファミリーサポート事業の利便性の向上